

2019年1月23日

川崎汽船株式会社

当社保有大型LPG船“GRACE RIVER”号による
イクシスLNGプロジェクトからの日本向けLPG輸送の件

本日1月23日、アストモスエネルギー株式会社(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：荒木 誠也)、国際石油開発帝石株式会社(本社：東京都港区、代表取締役社長：上田 隆之)が豪州で主導するイクシス LNG プロジェクトにて生産されたLPGを、日本で初めて九州液化瓦斯福島基地(長崎県松浦市福島町)にて受け入れ、当該LPGは、当社保有大型LPG船“GRACE RIVER”号が輸送の任を果たしました。

イクシス LNG プロジェクトは、日本企業が初めてオペレーターとして事業を推進する大型LNGプロジェクトであり、同プロジェクトで生産されるLNG(年間約890万トン)のうち約7割が日本の需要家に供給されるほか、ガス田探鉱・開発、パイプライン・液化プラント・受け入れ基地の建設、海上輸送といったバリューチェーンを日本企業等が担っていることから「日の丸プロジェクト」ともよばれております。また、LNGのほか、LPG(年間約165万トン)、コンデンセート(ピーク時日量約10万バレル)も生産・出荷される計画です。

同プロジェクトからのLNG初出荷(2018年10月)に際しては、当社が保有するLNG船“PACIFIC BREEZE”号がこれを輸送したほか、コンデンセート輸送にも当社シンガポール法人が保有・運航するアフラマックスタンカーでの輸送が予定されているなど、同プロジェクトが生産・出荷するLNG・LPG・コンデンセートそれぞれの貨物に対し、当社グループ船による日本への輸入が見込まれています。

当社は、このエネルギーバリューチェーンの一端を担う使命の重要性を改めて認識したうえ、安全・安定輸送に全社一丸となって取り組むとともに、多種多様な輸送ニーズに積極的に応え、安全且つ高品質な輸送を提供して参ります。